

第5回千葉市学校教育推進計画懇話会議事録（要旨）

1 日 時：平成20年2月6日（水） 午後6時00分～午後8時00分

2 場 所：教育委員会第1・2会議室

3 出席者：（委員）

明石会長 岡村副会長 相川委員 秋元委員 安達委員 伊藤委員 今泉委員
岡本委員 神田委員 貞広委員 下重委員 杉森委員 戸村委員 宮浦委員

（事務局）

教育総務部長 学校教育部長 教育総務部総務課長 教育総務部企画課長
学校財務課長 学校施設課長 学事課長 教職員課長 指導課長 保健体育課長
教育センター所長 養護教育センター所長 生涯学習振興課長 社会体育課長
青少年課長 中央図書館長 教育総務部企画課主幹 広報広聴班主査 担当

4 議題等

（1）議事

ア 第4回懇話会の議事録の承認について

イ 「千葉市学校教育推進計画のあり方」（案）について

（2）その他

5 議事等の概要

（1）第4回懇話会の議事録の承認について

全会一致で、議事録案が承認された。

（2）「千葉市学校教育推進計画のあり方」（案）について

事務局が「千葉市学校教育推進計画のあり方」（案）について説明し、懇話会委員による意見交換を行った。

（3）その他

第6回懇話会の開催については、基本的に、平成20年3月26日（水）午後6時から、教育委員会第1・2会議室で行うことで、決定した。

6 会議の経過 別紙のとおり

別紙

鍋木補佐

皆様、定刻になりましたが、天気の関係でまだお見えになっていない委員がいらっしゃいますので、しばらくお待ちください。

皆様、大変長らくお待たせいたしました。

ただ今より「第5回千葉市学校教育推進計画懇話会」を開会します。私は、本日の進行を務めさせていただきます、企画課の鍋木です。よろしくお願いいたします。

本懇話会は、千葉市附属機関等の会議の公開に関する要綱に基づき、前回会議と同様、会議を公開いたします。本日は大里委員、小川委員、清水委員、鶴岡委員におかれましては、所用のため、ご欠席との連絡がはいております。

傍聴者の皆様は、配付いたしました傍聴要領に従って傍聴をお願いいたします。

それでは、お手元に配付してございます「会次第」に沿って、進めさせていただきます。

はじめに資料を確認させていただきます。

会次第、座席表、議事1の資料として“第4回懇話会の議事録(案)」、次に、議事2の資料として“「千葉市学校教育推進計画のあり方(案)」(中間報告)について”、参考資料1“「千葉市学校教育推進計画のあり方(案)」に関する意見整理表”、参考資料2の“千葉市の目指すべき子どもの姿(例)の提案等に関するアンケート集計結果”でございます。

それでは、議事に先立ちまして、お集まりの皆様にご挨拶申し上げます。

教育総務部長

皆様こんにちは。教育総務部長の大野でございます。

委員の皆様方には、大変お忙しい中をご出席賜りまして、厚く御礼を申し上げます。

昨年は、8月の第1回懇話会以降、4回にわたり、大変ご熱心にご審議をいただき、誠にありがとうございました。年が改まりまして、今年度は今回を含めて、2回の会議

を予定しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

前回の会議では、「千葉市学校教育推進計画のあり方（中間報告）」の案を提案させていただきましたが、皆様方から頂戴しましたご意見・ご提案をもとに、一部内容を修正いたしました。本日は、前回に引き続き、その中間報告（案）のご審議をよろしくお願いいたします。

誠に簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

ありがとうございました。それでは、この後の議事の進行は、明石会長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

明石会長

では、議事１の「第４回懇話会の議事録の承認について」をお願いします。

昨年１２月２０日に行われました第４回会議の議事録をあらかじめ皆様にお配りして、既にご覧いただいていることと思いますが、いかがでしょうか。何か、異議や修正事項はありますか。

< 異議なし >

では、特にご意見等がないようでしたら、承認とさせていただきます。

それでは、議事２の千葉市学校教育推進計画のあり方（案）について、事務局よりご説明いただき、その後に議論したいと思います。では、山下主幹よろしくお願いいたします。

山下主幹

企画課山下でございます。お手元の協議資料をもとに「千葉市学校教育推進計画のあり方」（案）についてご説明いたします。

説明に先立ちまして、委員の皆様方から、大変お忙しい中、「計画のあり方」につきまして貴重なご提案・ご意見を多数寄せていただきましたことにまずもって御礼を申し上げます。ありがとうございました。

「各内容に関するご提案・ご意見」につきましては、「参考資料１ 意見整理表」としてお手元に配付させていただいておりますので、協議資料と併せてご覧いただければと

思います。

今回、皆様方から頂戴いたしましたご意見等をもとに前回の協議資料の修正をさせていただきます。アンダーラインを付してございます。

なお、類似の内容についてまとめさせていただいたり、事務局の方で検討し再度修正を加えさせていただいたりしたところもございますので、お一人お一人のご意見が十分に反映し切れていない点多々あるかと思えます。この点も含めまして、後ほど協議の中でご意見をいただければと思えます。

また、文言についてのご指摘もございました。例えば「子ども」・「子どもたち」といった表現は、すべて「子ども」に統一いたしました。「教師」・「教員」・「教職員」という表現や「はぐくむ」・「育てる」・「つける」といった言葉について、それぞれの内容に即した形で使い分けるようにいたしました。ただし、まだ十分直しきれていない部分もございますので、今後さらに修正を加えて参りたいと思えます。

それでは、協議資料についてご説明させていただきます。まず計画に「盛り込むべき内容」に関してですが、表紙をご覧ください。今回修正を加えた箇所としまして、「2の(1)千葉県学校教育推進計画策定の趣旨」及び「(2)千葉県学校教育推進計画の位置づけ」について、それぞれ、「千葉県学校教育の更なる充実を求めて」、「今後10年先を見据えた千葉県学校教育の指針とするために」という副題を付けまして、内容が把握できるようにいたしました。

また、今回新たに(3)として「千葉県学校教育推進計画策定の視点」を加えるとともに、「(4)の施策体系」について、 から まで、それぞれの内容に沿った形で項目の整理を行っております。

それでは、各項目に沿って説明させていただきます。

まず、1ページ「はじめに」をご覧ください。前回の資料では、「計画のあり方」と「計画案」の2点から記述をしてございましたが、今年度は「計画のあり方」についての中間報告としていただくことから、改めて内容を整理して、書き直してございます。

次に、2ページの「計画策定の趣旨」及び「計画位置づけ」についての変更点ですが、これについては先ほど申し上げたとおりです。

次に、3ページをご覧ください。今回(3)として、「千葉市学校教育推進計画策定の視点」を加えさせていただいております。これは、委員の方々からの意見にございました、「より千葉市らしさが見えるようなものに」といったご指摘や「達成に向けた方向性がより具体的な形で示されるように」といったご指摘を受けまして、計画策定に向けた懇話会としての基本的な考え方を示していくことが必要と考え、新たに盛り込んだものです。

内容といたしましては、策定に向けた基本的な考え方として、「これまでの千葉市の取り組みの成果の深化・充実を図る」と同時に「様々な課題を克服する」といった視点を例として挙げております。

また、策定の視点としまして5点を例として挙げさせていただいております。

「市民と一体感のある教育目標」が一点目でございます。これは、教育目標の共有化と評価を通じた教育改善といった点に留意した計画とするべきであるとの考えを示したものです。

また、二点目の「深化と充実」は、「わかる授業・楽しい教室・夢広がる学校」づくりの更なる充実といった観点、三点目の「新しい時代への対応」は、今後の社会変化への積極的な対応といった観点、四点目の「個に応じた教育の保障」は、子どもの意識や実態の違いを大事にした教育の充実といった観点、さらに、五点目の「学校現場第一主義」は、学校現場の課題改善や学校・家庭・地域の連携の強化といった観点に、それぞれ留意する必要があるとの考え方を示したものです。

ここに例として挙げさせていただきました「計画策定の視点」は、施策体系や施策展開の方向性につながる重要な部分になるものと考えます。

次に、(4)施策体系についてですが、「施策体系の例」の一番下のところで、「具体的施策」の中に、「施策評価指標」という文言を加えてございます。これは、先ほど「策定の視点」の一つとしてご提案いたしました「市民と一体感のある教育目標」という策定にあたっての視点を反映させたものでございます。

次に5ページ「(4)施策体系」のうち「千葉市の目指すべき子どもの姿」についてですが、全体の構成を変えてございます。中央に「千葉市の目指すべき子どもの姿」を位置づけました。そして、上に「千葉市の子どもを取り巻く状況」と「予想される今後の社会の変化」を、下に「千葉市の子どもの主な課題」を示すような形で整理いたしま

した。

この「目指すべき子どもの姿」につきましては、委員の皆様からそれぞれ3点ずつ選んでいただきましたが、その結果につきましては、「参考資料2 アンケート集計結果」にまとめて、お配りしてございますのでご覧いただきたいと思います。

一番多かったのが「好奇心と向上心を持って最後まで取り組むちば市っ子」で、次が「人を思いやる心を持った実践力のある（シュートの打てる）ちば市っ子」と「いつも夢や希望をいただき、たくましく生きるちば市っ子」が同数という結果でございました。なお、上記以外に提案のあったものを、参考としまして下に3点示させていただいております。

この「千葉市の目指すべき子どもの姿」は、教育目標や施策展開の方向等をより明らかにしていく上で、また「千葉市らしさ」を打ち出していく上で重要なポイントとなるうかと思えます。

次に、6ページをご覧ください。

「施策体系」の中の「教育目標」についてですが、「目指すべき子どもの姿」の実現に向けた「基本となる目標」として位置づけ、例として6点示しております。「目指すべき子どもの姿」と併せてご審議をいただければと思えます。

続いて下段の「施策展開の方向」についてですが、計画に「千葉市らしさ」といったものを盛り込んでいけるよう、今回新たに「検討の際の重点とする考え方」を加えさせていただいております。

あくまで例でございますが、一つは、「千葉市の目指すべき子どもの姿の実現を図っていく」という点です。当然のことではありますが、どういった姿が千葉市の目指すべき子どもの姿なのか、ある程度固めていくことで、「千葉市らしさ」につなげていけるものと考えます。

二つ目は、「わかる授業・楽しい教室・夢広がる学校を具現化する」という点です。これは、すべての施策展開の方向や重点的な取り組みにかかわる視点であると考えます。

三つ目は、「千葉市民としての誇りと一体感をはぐくむ」という点です。これは、市で実施した市民調査の中で、千葉市に在住の方々が、千葉市について、どんな印象があるかという調査がありました。「便利で愛着がある」とする反面、「千葉市民としての誇りや一体感が希薄」との意識を持っていることが明らかになっておりました。こういった

点を考慮に入れることで、「千葉市らしさ」を視野に入れた目標につながっていくものと考え、載せさせていただきました。

さらに、施策展開の方向性がより具体的な施策に結び付くよう、「確かな学力の育成」や「豊かな心の育成」等の観点、これは前回と同じでございますが、「施策展開の方向についての例」として、前回の資料を一部修正したものを示しております。

次に、「施策体系」のうち、「施策体系(例)」についてですが、7ページに全体像を整理してございます。委員の方からの、「具体性を持たせたい」とのご意見、また、ご提案いただいた内容をもとに、一部修正を加えてございます。

構成としましては、「知・徳・体」そして「一人一人への支援」といった、直接子どもの指導に係る目標を上段に、そしてそれを支えるものとして、「教師の資質向上」と「教育環境の充実」に係る目標を中段に、さらにこれらの土台として「学校・家庭・地域の連携」に係る目標を一番下段に位置づける構成といたしました。

続いて、「施策展開の方向と施策目標、取り組みの重点」につきまして、8ページ以降に示してございます。この中で今回新たに、「重点的に取り組むべき事項」について、付け加えさせていただいております。これは、「施策展開の方向に具体性を持たせる」とともに、「施策評価につながる視点を加える」といった点を、これも委員の皆さんのご意見がありましたが、勘案して入れたものです。

「施策体系の例」や、施策目標・取り組みの重点は、あくまで例として提示させていただいたものでございますので、皆様のご意見をもとに、より「千葉市らしさ」や「具体性が見える」計画として進めていただければと思います。

この後の協議でございますが、次のような点を中心に話し合っていたいただければと思います。

まず、「千葉市学校教育推進計画策定の視点」ということで新たに設けたわけですが、こういった視点を中間報告に盛り込むことの必要性について。また、盛り込むとすれば、例として挙げさせていただいた基本的な考え方や策定に当たっての視点は適切なものかどうかご検討いただければと思います。

次に、「千葉市の目指すべき子どもの姿」と「教育目標」についてですが、施策展開の方向等と深く関連いたしますので、アンケート結果等をもとに、懇話会の中で、ある程度の方向性を示していただければと思います。

また、「施策展開の方向」を検討する際の重点として、先ほど申し上げましたが、「千

葉市の目指すべき子どもの姿の実現を目指す」・「わかる授業・楽しい教室・夢広がる学校を具現化する」・「千葉市民としての誇りと一体感をはぐくむ」の3点を例として挙げさせていただいておりますが、こういった点を中間報告に盛り込むことについてどうか、また、例として挙げた3点の内容が適切かどうかご検討をいただければと思います。

さらに、「施策体系の例」ですが、全体の構成や内容について、修正を加えるべき点等、ご検討をお願いいたします。

加えて、「施策展開の方向」についてですが、今回それぞれの目標につきまして「重点的に取り組むべき事項」を例として挙げてございますが、「千葉市らしさ」や「具体性を持たせる」という点で内容的にどうか。また、来年度、検討を予定している具体的施策や評価に結び付く内容かどうかといった点からご検討をいただければありがたいと思います。

最後になりますが、全体を通して、より「千葉市らしさ」が出せるような計画とするために、さらに工夫すべき点等についてもご協議いただけるとありがたく存じます。

以上、大変簡単ではございますが「議事(2)」についての説明とさせていただきます。よろしくをお願いいたします。

明石会長

それでは、意見交換に入りたいと思います。具体的に申しますと3ページから4ページにかけて、新たに5つの視点がでてまいりました。「市民と一体感のある教育目標」、「深化と充実」、「新しい時代への対応」、「個に応じた教育の保障」、「学校現場第一主義」、こういうスケールから計画を作っていきたいというご提案です。これに関して何かご意見はありますか。

例えば、順番を「新しい時代への対応」を「市民と一体感のある教育目標」の後に持ってくるということも可能です。戸村委員、いかがでしょうか

戸村委員

これは、例だというご説明があったと思いますが、“例”というのはどういう意味にとったら良いのでしょうか。“案”ではなく“例”とおっしゃいましたね。これについて、ご説明いただければと思います。

企画課長

中間報告は、懇話会の意見を元にその総意によってまとめていきますが、各委員の意

見等については、例という言い方で挙げさせていただいています。従いまして、懇話会として了解が得られれば、案という形になると考えております。

戸村委員

例と案とであまり変わるわけではないですね。

まず、順番の話になると細かすぎるかもしれませんが、今まで学校教育について目標を立てて、推進されているわけですから、「深化と充実」というのは、具体的には今まで進めています「わかる授業・楽しい教室・夢広がる学校」が一番前にくるのが良いのか、それとも最後にするのが良いのか、両方あると思いますが、これを重点的にする。今までやってきたことは間違いでなかったということに自信を持って、それを視点として取り上げていくことも必要ではないかと思います。

明石会長

杉森委員はいかがですか。幼児教育の面から見て。

杉森委員

幼児教育だけではないのでしょうけれど、幼児教育は小学校教育につながってくわけです。元に戻って申し訳ないのですが、千葉市の学校教育をどう進めるかという点では、今の子どもたちもそうですが、保護者や学校現場の人たちが、困っていることや戸惑っていることを前回、前々回で挙げてきたので、そういうことをもっと、反省と云ったらおかしいですが、戸惑いや漠然とした不安をどう解消できるのかということが土台になると、この文言が生きてこないと思います。最初にあった市民と一体感のある教育目標を、反省と云ったら語弊があるかもしれませんが、どういった反省をして、これを正すためにこういう文言があるというのがあった方が良いと思います。これだと、わかるのですが、前のことはさて置き、という感覚にとられてしまうように思います。

子どもたちも含めて幼児教育は、これから新しい千葉市に入っていくわけで、子どもたちのためにも、今までとは違うけれど、こういう方向でいこうよ、というのがもう少しあっても良いと思いました。

明石会長

相川委員いかがでしょうか。PTA活動を通して。

相川委員

今、市民と一体感がほしいとか、深化と充実といった話がありましたが、現在どの程度の水準にあって、更にどの程度深化してほしいのか、また一体感がどの程度なのかがわからない。その辺は教育委員会や先生方で一体感を感じているけれども、更に進めるのだったら、どの辺までできているのかということがあると、わかりやすいと思います。

明石会長

安達委員、いかがでしょうか。

安達委員

今、相川委員がおっしゃったことと関連しますが、一体感といいますか、分担ですか。そういったことをもう少し盛り込んでも良いように思います。

明石会長

伊藤委員、いかがですか。

伊藤委員

今のご説明の中で、この視点を設けたことは、より「千葉市らしさ」を表現したいとのことで設定されたそうですが、私はコンセプトがわかりやすく、とても良い設定であると思います。

5つの項目が立てられていますが、その中で私は、より「千葉市らしさ」という意味においては、「市民と一体感のある教育目標」と、それから「学校現場第一主義」、この2点は「千葉市らしさ」が色濃く出ていると思いました。

設定の順番については良く考えていませんが、「千葉市らしさ」を表す上で、この設定に賛同します。

明石会長

では、今泉委員。

今泉委員

学校教育というものが、まず何をしなければいけないのかということを第一に考えなくてはいけないと思います。先ほど戸村委員がおっしゃったように、今まで取り組んで

きた「わかる授業 楽しい教室 夢広がる学校」づくりという、学校における子どもたちの学習生活というのを、順番としては、第一にもってきて、そこからこれからの千葉市としてこう進めていきたいのだという風にされた方が受け入れやすいのではないかと思います。

岡本委員

他にも視点はあるかもしれないと思わないではないですが、さしあたって私も思いつきません。ここに示された5つの視点で結構だと思います。順番については多少意見がありますが、委任したいと思います。

神田委員

私は、4番目の個に応じた教育、これが非常に大事だと思います。全てにおいて、子ども一人一人のための支援を行っていくということが非常に重要だと思います。全体としてこの5項目はそれで良いのではないかと。あまり推奨できなくても困りますので、この程度が良いと思います。

明石会長

では、宮浦委員。

宮浦委員

特に意見はありません。

下重委員

そうですね、順序等に意見はないです。ただ最後の「学校現場第一主義」ですが、中身の3行を見ていて少し違和感を持ちます。この文章の中の「学校・家庭・地域の連携」という言葉と、「第一主義」というのは相反するようなニュアンスを持っているものだから。

それから、個に応じた教育という印象ですが、もう少し踏み込んで表現していかなければと思います。今、最大の問題がこの部分にあるように思います。これまで個性を認めていくというのはあったと思いますが、それを伸ばそうというところまでいってなかったということが反省点にあるのではないかと思います。

貞広委員

非常にわかりやすく、方向性が明確になっていて、こういう視点を出していただくことは、後が読みやすくなります。かなり知恵を絞っていただいたと思っておりますが、その上で二点申し上げたいと思います。

まず、一点目は、「市民と一体感のある教育目標」についてです。ここでは、目標の提示の仕方を考えて一体感を確保すると述べてありますが、今回の中間報告に向けても、せっかくアンケート調査を実施しているのですから、そうした結果から積み上げて教育目標を立てるという方法も提示してはどうでしょうか。

もう一点は最後の「学校現場第一主義」という文言に関わることです。私も、この文言については、表題と中身とで、若干印象が違うというイメージを持ちました。また、中身の方に目を向けると、「学校現場の課題改善や・・・」という記述になっていますが、これですと対策は学校に丸投げと受け取られかねません。教育委員会・千葉市として、いかに学校が課題を解決するための支援をできるかという面も頭出しで加えていただけると、学校の負担だけを増やすということにならないのではないかと思います。

明石会長

秋元委員、いかがでしょうか。

秋元委員

皆さんのお話を聞いていまして、趣旨があって位置づけがあって、その次に視点があるので、具体的なものが入ってくるのかと思います。はじめはもう少し具体的なものがこの中に入った方が良いのではと思っていたのですが、皆さんがおっしゃっているように、非常にまとまっていると思います。全体的に私は、このあり方で良いと思います。ただ、「学校現場第一主義」には私も違和感がありますので、もう一步、何か良い表現があればと思います。

岡村委員

策定の視点は良かったと思います。また、5つの目標、5つが適当かどうかはわからないのですが、私もこれを読ませていただいて感じたのは、「学校現場第一主義」のこの表現と文章表現が気になりました。中身を優先するのであれば、当然「学校現場第一主義」というよりもどちらかといえば連携の方になるし、どちらをとるのかということです。

「千葉市らしさ」でいえば、「わかる授業・楽しい教室・夢広がる学校」、これは平成13年度からかなりアピールしてきていますので、これをもっと前にもってきても良いと思いました。

明石会長

これは大事なところなので、半ば強制的にご意見をいただきました。大変参考になりました。3月にもう一度ありますので、そのときに文言の整理、特に皆さんがおっしゃったのは、「学校現場第一主義」の文言と、中身の3行はそぐわない、というご意見ですが、ここは少し変更の余地があるような気がします。それと同時に「市民と一体感のある教育目標」はうまくもっていけば、地域学校、地域社会学校までもっていけると思います。今までは学校独自で目標を決めていたけれども、みんなで学校教育目標をつくっていくということもやりやすいし、特に千葉市の場合は、市民の市に対する意識が低い傾向がありますので、「一体感」へのこだわりが必要かなと思います。ありがとうございます。

それから個に応じた教育の保障については、個を伸ばすということが大事なので、応じるだけで良いのかということですね。それについてもう少し検討したいと思います。

それでは5ページの千葉市の目指すべき子どもの姿について、各委員に考えていただきました。意見分布をさせていただきました。1本か2本か、良い言葉を集めて一つにするという方法もありますけれども、今後これをどういう形でもっていくか。一番良いのは1本ですが。戸村委員いかがでしょうか。度数分布をみて。

戸村委員

私は一番初めの懇話会で、千葉の子どもに好奇心と粘りが欠けていると申し上げた手前、一番多い「好奇心と向上心をもって最後まで取り組む」というのに反対するわけにいきません。今回私もこれに投票しております。もう少し覚えやすいというか、短い言葉で表せたら、もっと良いとは思いますが、私は一つに絞るべきと思いますし、内容は皆さんの投票が一番多かった、好奇心がよろしいのではと思っております。

明石会長

相川委員、これを保護者からみると、どうでしょうか。教師よりも地域の人と、PT

Aのお父さんやお母さんの頭に入る目標でない。

相川委員

確かに、親が不安になっている部分に少し重点をおいた言葉にすることが必要かなと思います。確かに、好奇心が薄い、人を思いやる心が欠けているという意識が親にもありますので、それに合わせていけると、より保護者にとっても良いのではないかと思います。

明石会長

他にご意見はございませんか。

今泉委員

好奇心はよくわかるのですが、好奇心といたら、何？何？と行って、それで終わってしまうような感じに受け取ります。もっと好奇心をもって、踏み込んで、そこから進んでいけるような言葉はないかなと、丸を付けるときに思ったのです。少しこの好奇心という言葉が教育現場に相応しい言葉であるか疑問に思うところがあります。

明石会長

次に選抜方法としては、上3つを選んで1つを選ぶという方法もありますが、それと、言葉をミックスさせるという方法もあります。

できましたら、耳に残る目標が良いと思います。目に残る目標ではなくて。個人的には9番が一番良いと思います。これは戸村委員がお考えになったそうですが、博報堂と電通はこういうのを作るのでしょうか。教育委員会は真面目ですから、あまりこういうものは作らないでしょうけれど。馬力というのは泥臭いけれど、好奇心もある意味では馬力です。9番の場合は男性っぽい文言だとは思いますが。4番も最後まで取り組むというのが良いですね。

杉森委員

幼児教育で本当に必要なことは、学ぶ意欲、それから好奇心だと思います。それが好奇心と探究心だと思っていますので、4番は好奇心の後が向上心なので、幼児教育的には、ずれていると思ったのですが、子どもたちが「何かな？」と思う行為、「何しているの？これ何かな？どうして？」という最初の入り口が、やっぱり学ぶことの第一歩だと

思っています。私は学習の第一歩は好奇心だと思っています。幼児期においては、「なんだろう、不思議だな」という気持ちに、こちらがきちんと対応してあげる。それが連続して小学校の学校教育に上がっていくのがベストだと思っていますので、好奇心と探究心は必要ではないかと思えます。それをある意味つなげていけるものにできればと思います。

明石会長が推薦された9番ですが、私も良いと思いますが、あまりにも語呂合わせなので抵抗がありました。しかし、よくわかるし、今こういう子どもたちを求めたいと思いますし、賛成とか反対ではなくて、丸は付けなかったけれど、アピールするのは良いと思います。

明石会長

4番の文言で、好奇心を最後まで持ち続けるちば市っ子とか、持続させるちば市っ子とか、これはかなり論議を呼びます。要は、この懇話会で、作文をつくりたいのか、論議を呼ぶようなことを提案していきたいのかどちらなのか。作文をするのであれば、通り一辺倒なことを入れておけば、皆さんは良いと思うでしょうが。好奇心を最後まで持ち続けるちば市っ子なんて言ったら、これは論議を呼ぶでしょうね。

実は今日午前中に中央教育審議会がありまして、知の循環型社会を構築しよう、知のサーキュレーション、これを85年間やっていきましょうということです。最後は持続する好奇心ではないけれど、循環していかなければいけない。各委員の意見が欲しいのは、1・2・3という三つのワードを入れるというのも手です。好奇心、向上心、心と、こういうリズムと、一点に絞って鮮明化していくという方法です。

伊藤委員

感じたことを言いますと、上位3つは、確かにすばらしい目標（千葉市っ子）だと思います。しかし、これらを1つにまとめることはとても難しいと思います。先ほどから出ている好奇心や郷土を愛すること、体力の向上でも、それぞれに意味があることで、大事な事項です。ところが、これら全部を包括するような文言にまとめることは非常に難しいことです。ですから、先ほど明石会長がおっしゃったように、耳で覚えやすい表現の方向で考えることに賛成です。

すべてを支える表現を選ぶことは難しいことです。1番、6番は知徳体の部分的な事項を含んでいますが、3番と6番は全体を貫くような言葉になっています。9番は少し語呂合わせになっているかとは思いますが、耳に入りやすく覚えやすいと思います。シュー

トの打てるに関しては、12番の内容に重なると思います。

結論を言いますと、上位3つを一つの表現にまとめることには無理があります。ですから、大人にとっても子どもにとっても耳になじみやすい表現の方向で考えていくことが良いのではないかと思います。

秋元委員

私は前回も欠席してしまい、提案もしていないのですが、一つ教えていただきたいのは、この「ちば市っ子」というのが全て入っていますが、「ちば市っ子」は必ず入れるところからつくられているのでしょうか。

明石会長

たまたまです。

秋元委員

音で考えると、「ちば市っ子」というのはあまりきれいな音ではないと思います。私自身千葉で生まれ育っていますが、「ちばっ子」とは言っても、「ちば市っ子」とは言わないです。ですから、今風に言うと、「千葉ジュニア」とか、もう少し考えた方が良くと思います。

明石会長

千葉市なので、ちば市っ子となっただけだと思います。秋元委員、青年会議所的にみるといかがですか。

秋元委員

子どもが目標やキーワードに持つのか、親や教師がキーワードに持つのかで全く違って来るのではないかと思います。多分、子どもたちだったら、「ちば市っ子」とは言わないと思います。千葉に住んでいるけれど、「ちば市っ子」とは思わないし、例えば、「僕ら」とか、そういうものを使うと思います。「ちば市っ子」は音的にあまりきれいではないと思います。

明石会長

今、秋元委員から出ましたが、学校の場合は子ども用と教師用につくります。子ども

がわかりやすい目標と、教職員・保護者用とでは、方向性が違いますから。今回はそれと同じく2つを設けるのか、それとも、保護者や地域の方をお願いして1つにするのか、それによって確かに違いますよね。

岡本委員

一つに絞るという方向で事務局は今まで打ち出されていたのでしょうか。私はその辺をしっかりと把握していなかったので、新たに子どもの姿として考えられるものがあればというような、前回のアンケートがありましたので、別の視点からこういった子どもをということで一つ書かせていただいたのです。この論議を持つ上で、一つにするかしないか、そこら辺をみんなではっきりした方が、話が早いと思いますが、いかがでしょうか。

企画課長

これは、10年後の子どもたちをどういう子どもに育てていくかという子ども像です。ただ、ここがはっきりしていないと、その後にあります施策の目標や施策展開の方向性を示しづらいのではないかと思います。これは骨組みの的の部分ですから、できれば1つに絞っていただければと思います。ただ、絞りきれないということでしたら、いくつかご提案していただくということもあると思います。

貞広委員

とても難しいのですが、これは中間報告なので、市民の方々がご覧になって、意見を出していただき、後で見直すということを前提にして考えても良いのではないかと思います。そういう意味で、意見が出やすい文言、例えば「シュート力」とスローガンのように1個掲げるといったやり方はあると思います。「シュート力」の中には、どこにシュートを打ったら良いのかという知力も体力も含まれます。目に付くので、おそらく色々な方から意見が出て、最終報告には良い意見が出るかもしれないと思います。

明石会長

個人的にはこれで中間報告を出して、パブリックコメントをもらったときに、何も反応がないのはまずく、「どうして千葉市はこういうことを考えたのだ」という批判を含めて多くの意見をいただくような一つの運動を起こせないかと思っています。この懇話会で勝手に掲げましようと言ったって、何も動かないので、とにかく市民の方に考えてい

ただ、今後 93 万の市民が、どういう子どもを育てていくかという論議があった方が良くと思います。中間報告ということで自分なりに考えると、できたら 10 年後を見据えて、千葉市はどんな子どもを育てるのかという、そういう意味ではこれを受けて、タウンミーティングやシンポジウムを開いても良いと思います。

岡村委員

私は 2 回ほど欠席しましたので、提案をしていないのですが、3 つ選んだ中の一つは、1 番だったと思います。私は語呂合わせが好きなものですから。それから 4 番も選んだと思います。4 番は無難な感じ、オーソドックスな感じがします。私は 9 番のシュートというのが逆に引っ掛かって、馬力の方も引っ掛かって、これは避けたのですが、会長の話を聞いていると、論議を生んだ方が良くということであれば、思い切ってキーワードを出して、それを考えていくのも良いように思います。

戸村委員

私も語呂合わせというのは覚えやすく良いことだと思っています。9 番を提案したのは私ですが、知恵というのは文字通り教育の目標かもしれません。馬力は体力、シュートの打てるというのは先ほどありましたように、決断力、実行力、提案力を考えて、こういう言葉を使ったのですが、ご指摘ありましたように「ちば市っ子」というのは聞いたときに嫌な言葉だし、普通は言いません。ここに千葉県の教育ビジョンがありまして、これに「ちばっ子」という言葉が使われています。千葉市も「ちばっ子」というのが普通だと思いますが、ここでまた違う「ちばっ子」を育ててはまずいと思って、嫌々ながら「ちば市っ子」にしたのです。そういう意味では、“シュートの打てる”の「し」はない方が良くと思います。一つに選ばれたときに、「ちば市っ子」というのは嫌な言葉だという感じは自分でもありますので、その辺は皆さんから良い案を出していただけたらと思います。

今泉委員

今の「ちば市っ子」のことですが、私がこの会議の資料を見ていたときに、夫が隣から覗き込んで、“ふーん、「ちば市っ子」、なんか変だね”と言ったのです。主人も一千葉市民として、やっぱりそうなのだなと思いました。それからシュートが打てるというのはサッカーですよね。千葉市には野球のロツテもあるのに、サッカーだけをイメージするのはどうか、と思ったので、このシュートを打てるというのを省きました。

明石会長

最後の「ちば市っ子」は取りましょう。文言で読むと良いですが、耳で聞くとおかしいですね。捨て難いのは貞広委員のおっしゃった「シュート力」ですね。

神田委員

実際に子どもたちがどう受けとめるというのが大事だと思います。そういう点からすれば、小学校高学年6年生位の子と中学の子どもたちに、これを示して、どれをセレクトするか、参考資料としてアンケートを取ってみても良いと思います。

明石会長

今、神田委員からご提案がありまして、懇話会の委員だけで選ぶのではなく、例えば小学校高学年と中学生にアンケートをしてもいい。実は集英社という出版社がありまして、ここは中学校2年生に好きな言葉を選んでもらいました。それで上位3つが努力と友情と勝利、これを集英社の編集方針にしたのです。

神田委員のおっしゃるように子どもの好きな言葉を入れていくというのも手です。3月の第6回までに事務局と相談させていただいて、ここは大事なところなのでもう少し考えさせてください。

3番目として6ページのですね。の教育目標、の施策展開の方向とありまして、事務局の意図は、目指す姿は1本。その教育目標として具体的にこういう文言が書かれています。教育目標、方向性はこういうのでよろしいでしょうか、ということです。

例えば、千葉市の目指すべき子どもの育て方というのは、学校でいえば校訓みたいなものです。例えば「天を敬い、人を愛す」とか、それが千葉市の目指すものだ。その次に学校の目指す教育目標があると考えていただけると、趣旨がわかるかと思うのです。

こういう教育目標はいらぬという意見があっても良いです。目指すべき子ども像があれば、教育目標はいらぬという意見があっても良いです。

それではの施策展開の方向性で、こういう3つの方向性、例えば「千葉市の目指すべき子どもの姿」の実現を目指す「わかる授業・楽しい教室・夢広がる学校」づくりを具現化する、その結果として千葉市民としての「誇り」と「一体感」を育む、と言う施策展開の方向ですよね。それで6ページの下に具体的な例が出てきます。これはたくさ

んの例が網羅されているのです。

7ページにあります、一番上が空欄です。千葉市の目指すべき子どもの姿が空欄です。次に教育目標が空欄です、その下に施策展開の方向についての提案が4つございます。知と心と体と、支援を含めた充実。その下に指導力をもった教員の育成と、右の方に教育環境を整える、その全体を支えるのが、学校・家庭・地域で支えていきますよというマトリックス。

それでは6ページに戻りまして、教育目標はできれば一つの方が良いと思いますが、岡村先生、校訓を決めるときはどのような手続で行っているのですか。

岡村副会長

一番重要なことは学校の子どもの実態把握です。学力の面とか、健康・体力的な面とか、様々な側面からデータを把握して、何が不足していて、何を伸ばしたいのかということから入っていきます。目標は、子どもたちに覚えるという必要はありません。どちらかといえば教師サイドが覚えていれば良い。校訓は子どもたちに示して、それを生活の中で実践できるのが望ましいです。

個人的には学校教育目標について子どもに示すということはありません。ただ教室の前面のところに、どのクラスも学校教育目標と校訓を出してありますが。一方、目指すべき子どもの姿が校訓に当たり、学校教育目標が教育目標に当たると思います。とすると、やはりスローガンのようにするのが良いことかなという気がします。

明石会長

6ページの教育目標のところですが、「自分で考え、学び、行動できる力をはぐくむ」か、千葉市の調査では夢と希望を持たなくてはという結果が出ましたから、「夢や希望を持って学び続ける力の育成」か。せっかく貴重な調査があったので、今の千葉市の子どもに何が欠けているのか、それを育てるところも必要かと思います。

それとも確かな学び、豊かな心、健やかな体を育む、いうならば3番目は一番反論がない。まさに知・徳・体がありますから誰からも反論が出ないでしょうね。

杉森委員

私は、一番上にある「自分で考え、自ら学び、一人で行動できる力をはぐくむ」。個人

でもっと頑張れと。個が大事だし、個がもっと力を出さないと。個の力をもっと付けたいと思います。これを出したら大変なことになるでしょうけれども、もっと一人一人が、回りを気にしないで、回りの目を意識しないで自分の考えで行動できる人になって欲しいというのは、幼児期からの願いだし、個の力を出したいけれど、そういう極論的なスローガンだと、結構言われると思います。もっと個を強くしないと、ただでさえ少子化になって、子ども数が減っていることを考えると、もっと一人一人のパワーを強くしていかないといけないと漠然と考えています。ただ教育目標にしてほしいということではありません。「自分で考え、自ら学び、一人で行動できる」、別に他者を排除する意味ではないのです。

明石会長

非常にシンプルでわかりやすいですけど。

真ん中の学びを、人と学び、一人で行動できるとか。最後は一人が良いですね。

ということは、公立学校の良さを考えると、色々な子どもがいることなのです。私学の場合はある程度セレクトされますから、ある程度固まった人がいますが、公立の良さは、その中でお互いに刺激し合って成長できる、ひとり立ちできる。私は千葉市の風太くんを使えないかなと思っています。自分で立っている。非常にわかりやすい。

ではこれもまた、次回に決めたいと思います

3番目については、いかがでしょうか。特に真ん中の、千葉市の中核である、「わかる授業・楽しい教室・夢広がる学校」の具現化と、それに基づいて市民としての「誇り」と「一体感」。

8ページをご覧くださいませるか。施策体系の方向性ですが、重点的に取り組むべき事項、8ページには確かな学力ということを提言しています。9ページでは豊かな心の育成、10ページは健やかな体、11ページが一人ひとりへの教育支援、12ページが教員の資質向上にかかわることで、13ページが教育環境にかかわること、14ページでトライアングル、三角形で子どもを育てましょうということで、課題があって施策展開の方向性がある、その下にこういう形で重点的にやっていきますよという各論の部分があります。

ここからは各論に入ってきますので、できましたら、この各論のところでは「千葉市らしさ」を出していければと思っております。

では8ページの確かな学力というところで何かご意見ありますか。

指導課長にお聞きしたいのですが、例の文部科学省の学力テストがありました。千葉市は全国平均より高いというのはわかりましたが、政令市の中ではどの程度にあるのか。本当に千葉市は全国平均よりは良いのだけれど、政令市の中ではどうか。

指導課長

全国的に良いとか、悪いとかという話ではなく、全国の平均と比較して極めて良好という形で話をさせていただいています。政令市の中でどの程度かということですが、調査結果が大都市という全国の括りになっていますので、政令市の中で何番目ということは明らかになっていないところです。

明石会長

判断基準がないので委員の方が困ります。

主な施策展開の現状にあります学校図書指導員の配置等のようにもっと千葉市の学校教育の良さを自慢していきたいと思っています。学校図書の利用者が増えている。子どもたちに目に見えない学力が身に付いている。千葉市の教育はそういう部分をもっと自慢してほしいと思っています。例えば、ある小学校では朝読書を20分やっているとか。それが数学と理科の学力を高めています。もう一つ、千葉市の科学館、社会教育施設でしようけれども、千葉市が科学的思考を高めるとか、そういう兆しをもっと使うと良い。そういうことから確かな学力をつめていくと千葉市の教育の良さが出てくるという気がします。それから、小学校5年生6年生で、国際理解教育の英語やっていますよね。これも私は非常に力強いことだと思います。

では次、9ページ、ここの方が意見を出しやすいかなと思いますが、豊かな心にかかる提言がありまして、重点的に取り組むべき事項で、規範意識や公共の精神を持った子どもを育てる、環境保全、キャリア教育があります。

安達委員、ここについて、国際理解やキャリア教育ですが。

安達委員

ここに書いてあることは、もっともなことです。

明石会長

もっと絞りますと、規範意識や公共の精神というのがありますが、現状ではルールや約束を守らないことやいじめを当たり前と認めてしまっている子どもが少数ながらいるという調査結果が出ていましたね。

神田委員

次の健やかな体の提言と重なってしまうのですが、この豊かな心に関する提言でいきますと、いわゆる健康教育です。

それから、今問題になっている環境です。この環境教育というのは、今度のサミットでも取り上げられます。環境の問題は非常に大事なことです。この環境教育が具体的になっていないのです。中央教育審議会の中で環境教育は出てきていますか。

明石会長

はい、それは出てきていますが。

神田委員

やはり環境教育と、健やかな体の方の健康教育を具現化してやっていくことが良いのではないかと思います。

明石会長

文言として、環境保全という言葉がこれで良いのかについても検討してください。

岡本先生、朝礼についてお聞きしたいのですが。例えば、今は前期後期の場合もありますが、3学期制の場合は9月1日に始業式があります。それで朝礼で倒れる子どもは増えているのか減っているのか。というのは高校のインターハイが4年前に長崎でありまして、私も参加したのですが、トップレベルの彼らが、たった40分の開会式で13人も倒れたのです。体力のある、身体能力のある彼らでさえ、夏で暑かったにしても、バタバタ倒れるのです。朝礼をやったときに倒れるお子さんがゼロなのか、増えているのか。

岡本委員

話がずれてしまうような気がするのですが、実は、立って話を聞かせていないのです。どういふことかという、体育の授業で「気をつけ」、「やすめ」、「回れ右」と言った指導を最近はしていないのです。従いまして、朝礼や集会の時に子どもたちにまとまった時間話そうとするときは、小学校では腰を下ろさせてしまうのです。従いまして、今のご質問には答えられないのです。腰を下ろさせて話を聞かせることについてどうかということとなるとまた話がずれてしまいます。

明石会長

中学校ではどうですか。

岡村副会長

私は5分以上話すときは座らせます。だいたい5分以上話すと、どこかで倒れてしまいます。

明石会長

高校はどうですか。

下重委員

座らせます。

明石会長

高校も座らせるのですか。

要するに、いろいろな施策を考えるときに、ある具体的なイメージがないと、みんな文言は綺麗ごとなので、リアリティがないと思ひまして。

各委員の方が比較的意見を出していたのは13、14ページだと思うのですが、保護者の責任の問題とか、教育委員会がどういふ支援等を出していけば良いのか。

13ページの中で、千葉市は中高一貫校を導入しています。千葉県では、浦安市が行っていますが、小中の一貫校を行うつもりはないのかといったことも含めて、各委員から出していただければと思ひますが。

事務局にお聞きしたいのですが、学校評議員がありますが、うまく機能しているので

しょうか。

学事課長

学校評議員ですが、千葉市立の小・中・特別支援学校、高校まで、全ての学校で設置されております。この制度は、学校・家庭・地域が連携協力しながら、保護者や地域の方々の意向を把握し、学校運営に反映させるなどの成果を挙げています。学校評議員の方々からは、学校と地域の風通しの良さを感じるなどの声をいただいております、地域との信頼関係がより深まったように理解しています。

明石会長

もう一点お聞きしますが、来年度文部科学省が「学校支援地域本部」をつくると聞いておりますが、千葉市ではどう対応する予定でしょうか。

生涯学習振興課長

今おたずねの「学校支援地域本部」の件ですが、ご承知のとおり本市では、平成19年度から「放課後子ども教室」を全120小学校で取り組んでいます。「学校支援地域本部」は地域の方々や学校支援をされる方々で構成され、「放課後子ども教室」の指導者の方々とかなりの部分で重複することが想定されます。また中学校を主体としてかなりの部分、学校の協力が必要になります。以上のようなことから、現時点では、本市としては「学校支援地域本部」について取り組む予定はありません。

明石会長

残り時間が10分少々ですが、中間報告を3月の終わりにあるもう一回の懇話会でほぼ文言をまとめたいのです。最後にお聞きしたいのは「千葉市らしさ」というのが、どういうキーワードをもってれば千葉市らしいのかということが事務局の悩みであり、皆さんの悩みなのです。平成4年になって政令市になって、15年たちました。昔で言えば、元服でしょうから、大人になっても良いのかなと思います。それこそ政令指定都市千葉市の「らしさ」をキーワードで提案できれば良いと思っています。

市全体では「花の都ちば」です。うちの古在学長は稲毛に住んでいまして、千葉大まで歩いているのですが、「明石さん新発見した、千葉市は花がきれいでびっくりした」と

ほめていました。花の都や風太くんが有名ですが、そういう「千葉市らしさ」を教育の方に持ってきたときに、学校教育は一番とか、義務教育の6年生で英検3級クリアできるとか、そういう「千葉市らしさ」を考えていきたい。伊藤先生いかがでしょうか。千葉市の教育の自慢を出していきたいのですが。

伊藤委員

様々なことを義務教育は背負っていますから、その中で「千葉市らしさ」を打ち出すことは非常に難しいことですが、例えば千葉市で学んだ子どもが、他の県の人と千葉市の学びについて話をするとき、誇りを持って千葉市を語るすることができる学びを設定することはいかがでしょうか。加曽利貝塚のような千葉市に関する文化を掘り起こし、千葉科、千葉学のような科目を設定し、千葉市で学ぶ子どもは必ずこの学びを通過するようなことです。

それから、会長もおっしゃっていましたが、科学館についても学びの内容とし、「千葉市らしさ」を出してみたいかと思っています。

明石会長

保護者の視点から、千葉市の教育で自慢できるものはありますか。

相川委員

先ほど出ましたけれども、科学館もあります。例えば、千葉市は非常に力を入れているということであれば、未来に羽ばたく千葉市ですとか、もう少し候補を出していった方が良くはないでしょうか。発想力を与える、刺激を与えるという方向に持っていた方が良くもありません。

明石会長

中高一貫は県よりも早く始めたのですから、中高一貫をもう少しキャッチアップしていくと良いかもしれません。京都市は教育改革をしていますが、中高一貫校はありません。科学館とか、中高一貫校とか、先駆的なこと千葉市はやっていますら。

神田委員、学校医の立場から見て、何か自慢できるものはありますか。

神田委員

手前味噌になりますが、確かに千葉市の学校医のレベルは非常に高いと思います、様々な健康教育等を行っておりますので、そういう点では千葉市は先端をいっていると思います。というのは、ここ4年間に渡って文部科学省で行った「学校保健地域連携推進事業」で、千葉市がモデル地域になっておりましたので、そういう点では千葉市の教育委員会、特に健康教育関係の先生とタイアップして、医師会、歯科医師会、薬剤師会の3師会の連携が非常に良くできていて、千葉市の健康教育は国内でも大変充実しており、トップレベルをいっていると自負しています。

明石会長

実はうちの附属小学校のある先生が4月の歯医者先生が附属小の6年生のあるクラスでは虫歯がゼロだということに驚いていました。例えば、千葉市の虫歯ゼロということがあれば、相当自慢できると思います。そういうレベルでの「千葉市らしさ」を出していただけるとありがたいのですが。

神田委員

それから禁煙教育には非常に力を入れていて、医師会でも行っていきますし、歯科医師会でも、歯周炎を予防するための禁煙ということで、校医が各学校に訪問し、講演をしています。それが非常に好評だと聞いています。

少々遅れたのですが、学校敷地内禁煙にもなっています。

保健体育課長

今、神田委員からもお話がありましたが、本市三師会の先生方のお力添えにより、健康診断、検診関係、それ以外にも様々な審議会や対策委員会など、本市は他市に先駆けて取り組み効果をあげております。例えば他の市町村の健康診断では見つからなかった脊柱側湾症の子どもが、千葉市に転入してきて健康診断で見つかり治療・入院ということもあります。本日も県の施設である生実学校に出かけて歯の口腔衛生指導を行ってききましたが、子どもの虫歯についての取り組みも他市に先駆けた先進的なものです。他にも優れている点はまだまだあるかと思えます。

明石会長

あと千葉市の小・中・高校のホームページの充実はどうなのでしょう。県内のある

小学校は総理大臣賞を2回も受賞しています。また私のゼミの学生が、品川区の小学校40校のホームページを調べて、ホームページが良いところは他に出て行かない。入ってはこないけど、出ていかないという調査結果が出ました。千葉市の学校では、外に開かれた学校というか、その辺データはあるのでしょうか。

教育センター所長

各小・中・特別支援学校とも、ホームページは100%開設しております。その更新については、多くの学校で年1回、数多く行っているところは年4回以上更新していません。

明石会長

まだまだつきませんが、ありがとうございました。まだ解決していない部分もありますので、もう少し事務局と相談させていただいて、目指すべき千葉市の子どもの姿とか、教育目標について、この2つをまず決めないと、なかなか他のものが決めづらい。

次回できましたら3月26日(水)18時からこの場所で開催したいと考えております。そのときに、もう一度中間報告の原案を出したいと思います。そのときに神田委員がおっしゃった小・中学生へのアンケートができるのかできないのかを含めて、データに基づいて案を出したいと思います。できれば3月のときに決めていきたいと思います。

では事務方にお返しします。

明石会長ありがとうございました。ただ今をもちまして、第5回学校教育推進計画懇話会を閉会とさせていただきます。

以上